



Subaru

# 男声合唱団 ニュース№574 16. 8. 31

## 「昴」第6回団内コンサート開催さる！

8月 28日

- 8月28日（日）14:00より、昴「第6回団内コンサート」がねむかホールで開催されました。ソロ独唱でエントリーした18名、アコーディオン演奏1名、そして3つ(バリトンとバス合同で1つ)のパート別演奏、最後に森二三さんと近藤静さんのピアノ独奏があり、団員の参加者は全35名でした。また猛暑の中を、「中村教室」で声楽指導いただいている中村聖保先生をはじめ、数人でしたが、ご家族・友人知人の方々も訪問され熱心に聴いていただきました。なお、デュエット演奏1組（2名）が2人とも夏風邪のため、いつもの美声が出ず、演奏を断念されました。
- 副指揮者・技術部部長で活躍いただいている伊藤さんに「開会のあいさつ」をお願いしました。
- 今年はまずトップバッターに立川孝信さんが「祈りの海」(詩：鬼塚良弘・作曲：立川孝信)をテノールの良く響く明快な声で力強く歌われました。「基地あるゆえに悲惨な事件が続く沖縄、命と暮らしが脅かされている。その上に新基地を作るなどもってのほかです。沖縄県民の基地全面撤去の思いを全国民のものに広げていきたい、そんな思いで創作した「祈りの海」を聞いてください」と。



□第1部では、今年初出演という方が4名も続き、それぞれ個性豊かな歌声を披露されました。川妻茂美さんがロシア民謡「島影を出でて（ステンカラージン）」を、大橋一雄さんが北原白秋作詞・山田耕筰作曲「この道」を、山本宏司さんがカンツオーネ「Mamma」を、山下巧さんがシベリウス作曲「フィンランディア」をと、名曲の数々を若々しく、重厚な、また軽快な声が、気持ちのこもった表現力豊かな声が会場に響きました。



□また1部の演奏者は千秋教室のレッスン生が続きました。吉川勝彦さんがカンツオーネ「彼女に告げてよ」、寺脇伸育さんが土屋花情作詞・八洲秀章作曲「さくら貝のうた」を、土井一正さんがイタリア歌曲「忘れな草」を、大畠成美さんが「Caro mio ben」（「いとしい女よ」）をと、練習の成果を各自の完成度で歌い上げました。1部の最後、千秋昌弘さんが、北原白秋作詞・山田耕筰作曲の名曲「蟹味噌（がねみそ）」を熱唱されました。



□休憩をはさんで、第2部は山本力さんのアコーディオン演奏で始まりました。

1曲目哀愁たっぷりにフランシス・レイ作曲「ある愛の歌」を、そして「ワルツ・エスパナ(スペイン)」の軽やかなりズムのアコーディオンの音色に会場は酔いしれました。むつかしい「ボタンアコーディオン」が3年余りの練習でこのような演奏ができるのか！と会場には驚きと称賛の声と拍手に包まれました。

引き続き、第2部は「昴」の「ベテラン」の歌い手の熱演が続きました。

山本直一さんが「ミュージカル レ・ミゼラブル」より「星よ (S t a r s)」を熱唱され、次に吉田雄三さんが日本の歌曲「くちなし」(高野喜久雄作詞・高田三郎作曲)を、若園達夫さんが「夏の思い出」(江間章子作詞・中田喜直作曲)を、美しい日本語の詩を、ていねいに、しっとりとした美しいテノールの声で、お二人のそれぞれの思いを込めて歌われました。



□昴の日本民謡のソリスト・乾正明さんが「オ・ソレミオ」を力唱されました。今回は「良く知られた曲を取り上げ」「少々の間違いを許してもらおう」という「甘い考え方」を排して「恥をかく思いで歌おう」との司会文。聴く人たちには乾さんのバスの原点を知る曲となりました。“プラボー！”



終盤、山本力さんがモーツアルト作曲「窓辺において」を、古谷敏郎さんが「ネルコールピウノンミセント」を、そして伊藤知さんがモーツアルト作曲「恋のそよ風」を熱唱されました。

山本さんは司会文で「きょうは恐れ多くもモーツアルトの曲に挑戦します。女たらしのドン・ジョバンニになったつもりで歌います。」と。

古谷さんの司会文「カンツオーネ大好き人間なのですが、この曲は「うつろな心」と訳しています。本来女性でハスキ

一っぽい人が歌うと素敵です。私は堂々と歌います。」  
と。

そしてトリに伊藤さんは、「モーツアルトのオペラ「ゴジ・ファン・トゥッテ」第一幕で、「いとしいひとの愛のそよかぜは、やさしいなぐさめをもたらし・・(Un' aura amorosa)と歌い始める、美しさと切なさを持った愛のエリアです。若い士官の一人、テノールのフェランドが歌います。」と。歌い手の主人公になりきって歌う山本さん・古谷さん・伊藤さんは若い女性のあこがれの男性にうつることでしょう！



ソロの演奏のあと、各パートのパート演奏が続きました。トップテナー「アンジェラスの鐘」(詞・曲：梅原司平)、セカンドテナー「さびしいカシの木」(詞：やなせたかし 曲：木下牧子)、バリトン・バス合同「翼を下さい」(詞：山上路夫・曲：村井邦夫)が演奏されました。

今年も昨年に引き続き「パートレッスンの充実化」(「パートレッスンの定着と強化、パートの演奏能力の向上」)が昴の課題の一つになっていますが、短い練習時間の中で、各パートともそれぞれのパートの特徴を生かしたよくまとった演奏の力量を発揮した発表となりました。



□プログラムの最後に、2人の専属ピアノ奏者、森二三先生がモーツアルト作曲「きらきら星変奏曲」を、近藤静先生がモーツアルト作曲「トルコ行進曲」を演奏していただきました。昴出場メンバー全員の伴奏をお願いしたうえに、演奏曲目の変更等無理なお願いもしたようでしたが、見事な演奏に聴衆は大きな拍手で応えていました。



□最後に「お客様の感想」をいただきました。

○中村教室の中村聖保先生より感想をいただきました。

「ソロでの発表の機会を持っている合唱団は素晴らしい。ソロで鏡の前で歌う姿を見て、自分の必

要なくせ、必要でない癖をみて、いい姿勢で歌いましょう。いらない癖を正すことでよい声が出てくる。むつかしいボタンアコーディオンの演奏久しぶりに聴きました。演奏されている方の努力すごいなあと思います。ありがとう！

T1のパート別の合唱を11人で歌っているのを初めて聴きました。苦労している、努力しているのがよくわかりました。タテの線を合わせる努力を！ピアノに合わせて歌うことと共にアカペラで歌うこともしてほしい。またバス・バリトン声いいですね！いい声で気持ちの良い演奏でした。」

○6回もコンサートを続けておられるとは！のびのびと歌っておられて、みなさんの歌好きが前面に出ています。はじめてうたった方が何人も・・感動しました。パートの合唱ハモッテいて、これだけで立派な小編成合唱団です。

1回みんなの前で歌ったら病みつきになるこのコンサート、今日うたわなかつた人も是非聞かせてください。

○ソロで歌うこと大変だと思います。一人一人の真摯な、真剣な曲に対する取り組みがすばらしい。まずそれに感動します。外国の歌を原語で歌うのもいいですね。日本語の歌曲をていねいに心を込めて抒情的に歌われることも素敵です。パート別の合唱もユニゾンから合唱になったとき、すばらしいハーモニー！一人一人の個性が合わさってこそ素晴らしい合唱になるんだなあと思いました。



□最後に指揮者の本並先生から「閉会のあいさつ」をいただきました。

「今年も指揮者は歌わせてもらえなかった。指揮者はレッスン時に何小節かは、「こう歌え！」と言っていつも歌っているが、最近はまるまる1曲を通しては歌っていない。(歌いたい！) きょうのコンサートで感動したことの一つは新しく入られた大橋さんの「この道」の歌い方、声の出し方に感動した。お腹から体を筒状にして発声することの典型例。そして「Mamma」を歌われた山本さん。歌が好きなんだなあ！昇で一緒に歌いたいんだなあ・・という声が伝わって来てうれしかった！発声法については世界でそれぞれ違う。体の大きさも違う。昇は声の質どうのこうのでなく、人数が多ければ重厚に良く聴こえる。課題は大きいがみんなで頑張りましょう！」